

「健康ニーズ調査2011」結果の速報

— 震災後、健康への気づかい意識は下げ止まりだが、 良い食習慣での対策より、不安な食品敬遠の傾向 —

株式会社日本能率協会総合研究所（代表取締役社長：加藤 文昭 本社：東京都港区）は、2011年9月に、首都圏在住の15～69歳の男女個人を対象に、『健康ニーズ調査2011』を実施いたしました。本調査は、一般男女の健康に対するニーズを明らかにする総合的な調査ですが、この中から、下記のような実態が明らかになりましたのでご報告いたします。

(<http://www.jmar.biz/hot/hotanq42.html>)

◆健康への気づかいは前年より増加し、下げ止まりか。

男性30代・40代、女性40代は気づかいは高まる年代。

「積極的に気づかっている」14%、「まあ気づかっている」55%、合わせた“健康を気づかう人”は69%。2006年の73%をピークに年々減少していたのが、2010年と比べて5ポイント弱増加した。

◆女性のアンチエイジング意識のピークは40代、

若く元気であるため、健康に体型にしっかり気づかう。

「将来の健康には不安がある」は30代で20代より20ポイント以上増加し、ピークは40代。「いつまでも元気でいたいので、健康には気づかっている」は40代で30代より30ポイント弱急増。

◆「朝食」「三食」「野菜」が食生活の基本だが減少。

この5年で「魚」「緑黄色野菜」「和食」離れ一段と進む。

「朝食は必ず食べる」「三食欠かさない」「野菜を多く食べる」の3項目は約5割が行っていた。「魚を食べる」「緑黄色野菜を食べる」「和食中心にする」は5年間で10ポイント以上減少。

◆健康イメージ上昇中の『しょうが』とナッツ類、

野菜・乳製品・魚の低下傾向は下げ止まらず。

『アーモンド』『しょうが』『くるみ』『オリーブオイル』は5年間で3～6ポイントの増加。『ほうれん草』『乳酸菌飲料』『青ざかな』『わかめ』『卵』『ニラ』は5年間で10ポイント以上の減少。

◆6割の人が『放射能汚染』に不安、

いまや昔の『農薬』『食品添加物』『O-157』…

『放射能汚染』は60%が心配しており、2000年の調査と比較して25ポイント多い。女性30代では68%と、各年代中最も多い年代。

【調査概要】

- ・調査対象：首都圏に居住する15～69代の男女個人
- ・調査方法：日本能率協会総合研究所「モニターリサーチ・システム」利用によるFAX調査
- ・有効回収数：1,050人（発送数1,500人、有効回収率70.0%）
- ・調査実施日：2011年9月15日（木）～21日（木）

《本件についてのお問い合わせ先》

株式会社日本能率協会総合研究所 生活者HOTアンケート事務局 担当：土井

〒100-0004 東京都千代田区大手町2-2-1 新大手町ビル2階

TEL:03-6202-1287 FAX:03-6202-1294 E-mail:info_mlmc@jmar.co.jp

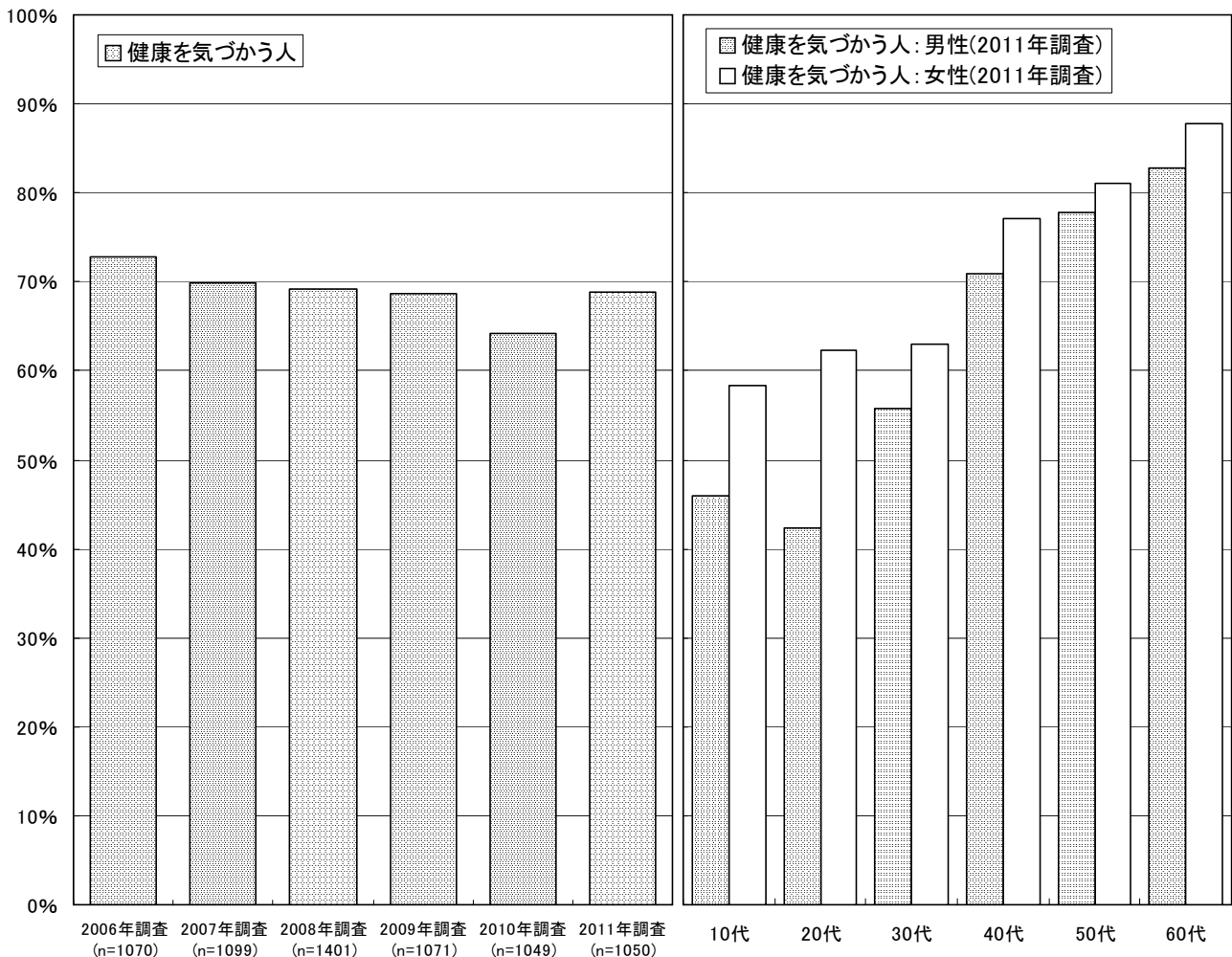
◆健康への気づかいは前年より増加し、下げ止まりか。
男性30代・40代、女性40代は気づかいは高まる年代。

普段健康を気づかっているかどうかを聞きました。「積極的に気づかっている」は14%、「まあ気づかっている」は55%、この2項目を合わせた“健康を気づかう人”は69%と約7割でした。

図表1の左のグラフは、“健康を気づかう人”の過去からの推移です。2006年の73%をピークに、年々健康への気づかいは減少していたのですが、今年下げ止まり、2010年と比べて5ポイント弱増加に転じました。2006年に“メタボリックシンドローム”が話題となった年は、健康を気づかう意識もピークだったのですが、ここ数年は年々下がり続けていたところでした。

右のグラフは、性年代別の比較です。2011年の結果をみると、どの年代でも男性より女性のほうが気づかう人が多いことがわかります。また、男女とも年とともに健康への気づかいは増加し、男性60代・女性50代・60代では8割以上の人々が“健康を気づかう人”です。男性は30代が20代より、40代が30代より、女性は40代が30代より、健康を気づかう人が10ポイント以上急増します。男性30代・40代、女性40代は、健康を気づかう意識が高まるようになる年代だということがわかります。

図表1 健康への気づかい (SA)



◆女性のアンチエイジング意識のピークは40代、若く元気であるため、健康に体型にしっかり気づかう。

健康についての考え方や行動について、あてはまるものを答えてもらいました。女性を年代別に比較したのが図表2です。

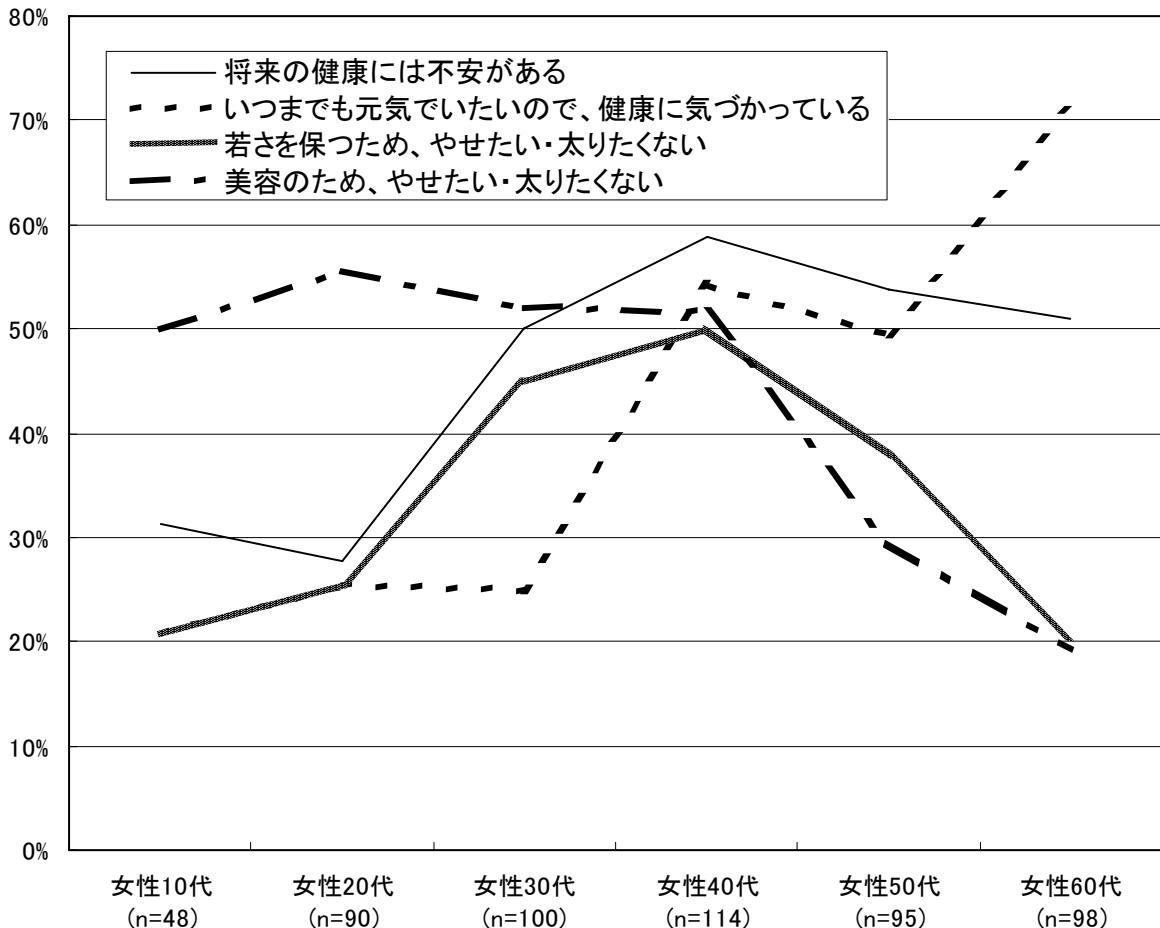
「将来の健康には不安がある」と答えた人は、30代で20代より20ポイント以上増加し、60代まで半数を超えます。将来不安のピークは40代です。

「いつまでも元気でいたいので、健康には気づかっている」と答えた人は、40代で30代より30ポイント弱と急増し、さらに60代で50代より10ポイント以上増加します。

女性40代は、将来不安が高まり、いつまでも元気でいるために健康をしっかり気づかっている年代といえます。

一方、女性の“やせたい・太りたくない”意識についてみると、「美容のため」は10代～40代まで半数を超えています。50代・60代と激減します。「若さを保つため」は30代で20代より約20ポイント増加し、40代がピークとなり、50代・60代と激減します。体型への気づかい意識は、若い女性から40代までが高いのですが、40代は体型の変化で加齢を実感するのか、美容目的だけでなく、アンチエイジング目的でも体型を気づかっているといえます。

図表2 女性の健康に関する意識 (MA)



◆ 「朝食」「三食」「野菜」が食生活の基本だが減少。
この5年で「魚」「緑黄色野菜」「和食」離れ一段と進む。

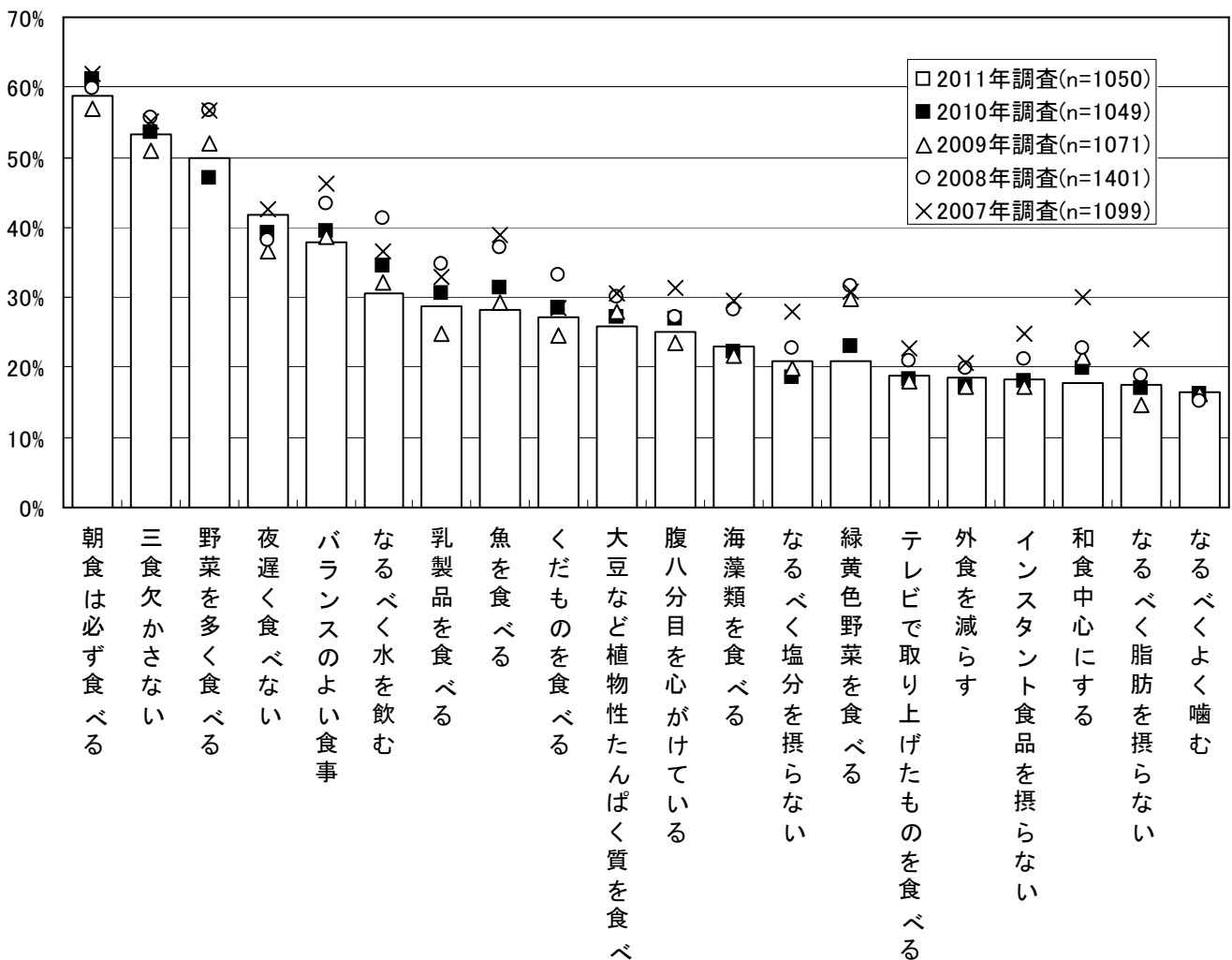
健康のために食生活で実行していることを聞きました。図表3は、上位20項目の2011年ランキングの棒グラフに、2007年～2010年のデータをプロットしたものです。

2011年では、「朝食は必ず食べる」「三食欠かさない」「野菜を多く食べる」の3項目は約5割の人が行っていました。次いで「夜遅く食べない」「バランスのよい食事」が約4割で続きます。

過去5年間を比較すると、増加傾向にあるものはほとんど見当たらず、棒グラフより上に過去のデータがプロットされた過去より減少傾向のものが目立っています。上位の「朝食は必ず食べる」「三食欠かさない」「野菜を多く食べる」をはじめほとんどの項目で2007年より減少しており、普段の食事を通して健康づくりをすることは、この5年間で年々減少しています。

特に、「魚を食べる」「緑黄色野菜を食べる」「和食中心にする」は2007年からこの5年間で10ポイント以上減少しており、「魚」「野菜」「和食」といった、生活習慣病を予防すると奨励されている、健康的な食生活は低下の一途をたどっており、歯止めがかからない状態です。

図表3 健康のため食生活で実行していること (MA)



◆健康イメージ上昇中の『しょうが』とナッツ類、 野菜・乳製品・魚の低下傾向は下げ止まらず。

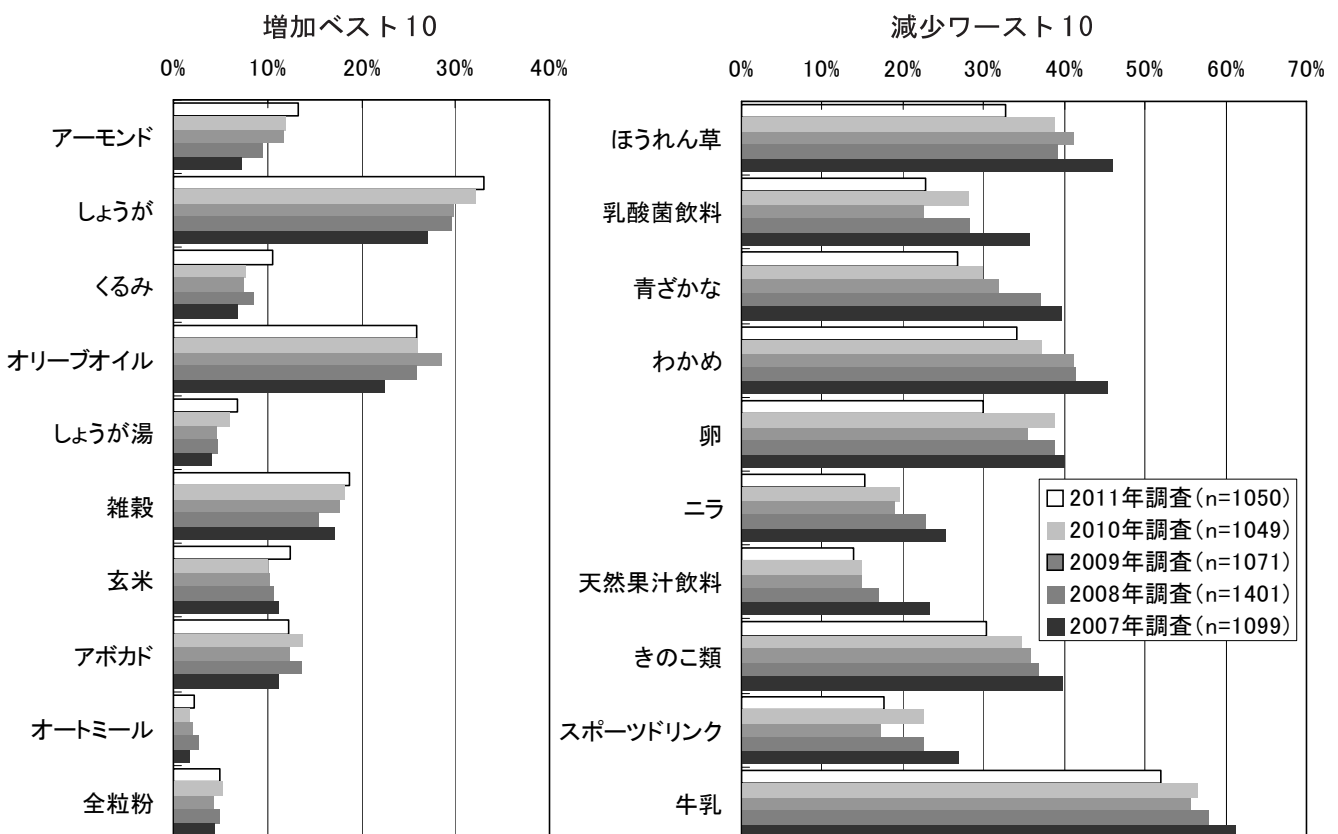
153 品目の食品・食材を挙げ、健康や身体にいいことを意識して積極的に食べているものを答えてもらいました。2007 年から 2011 年の推移で、増加幅・減少幅の大きかった上位 10 項目をランキングにしたのが、図表 4 です。

健康のために食べている人が増加した上位は『アーモンド』『しょうが』『くるみ』『オリーブオイル』等々でしたが、この 4 項目でも 5 年間で 3～6 ポイントの増加と、大幅出世は望めませんでした。とはいえ、『しょうが』は 3 割を超え、冷え対策の健康食材として定着しました。また、ナッツ類はダイエットサポート食品として人気です。このほか、穀物類は増加傾向の食材が多いようです。

一方、減少幅の大きかった食品の上位は『ほうれん草』『乳酸菌飲料』『青ざかな』『わかめ』『卵』『ニラ』で、5 年間で 10 ポイント以上の減少となりました。以下、『天然果汁飲料』『きのこ類』『スポーツドリンク』『牛乳』と続きます。153 品目中約半数の 75 品目が 5 年前と比較すると 3 ポイント以上減少しており、全体的には食品・食材を食べることで健康増進するという行動は低下傾向です。

特にワースト 10 をみると、葉物野菜、乳製品、魚等の海産物、きのこ類が多く、原発事故後に放射線検出が報道された品目が目立つのが特徴です。しかしながら、この 5 年間の推移をみると、原発事故後の影響で 2010 年から 2011 年にかけて急に食べるのをやめたというわけではないようです。5 年前から徐々に低下傾向が続いているものがほとんどで、原発事故をきっかけに、元々低下傾向にあった食品を、より敬遠するようになっただけということが言えそうです。

図表 4 健康のために食べている食品 (MA)



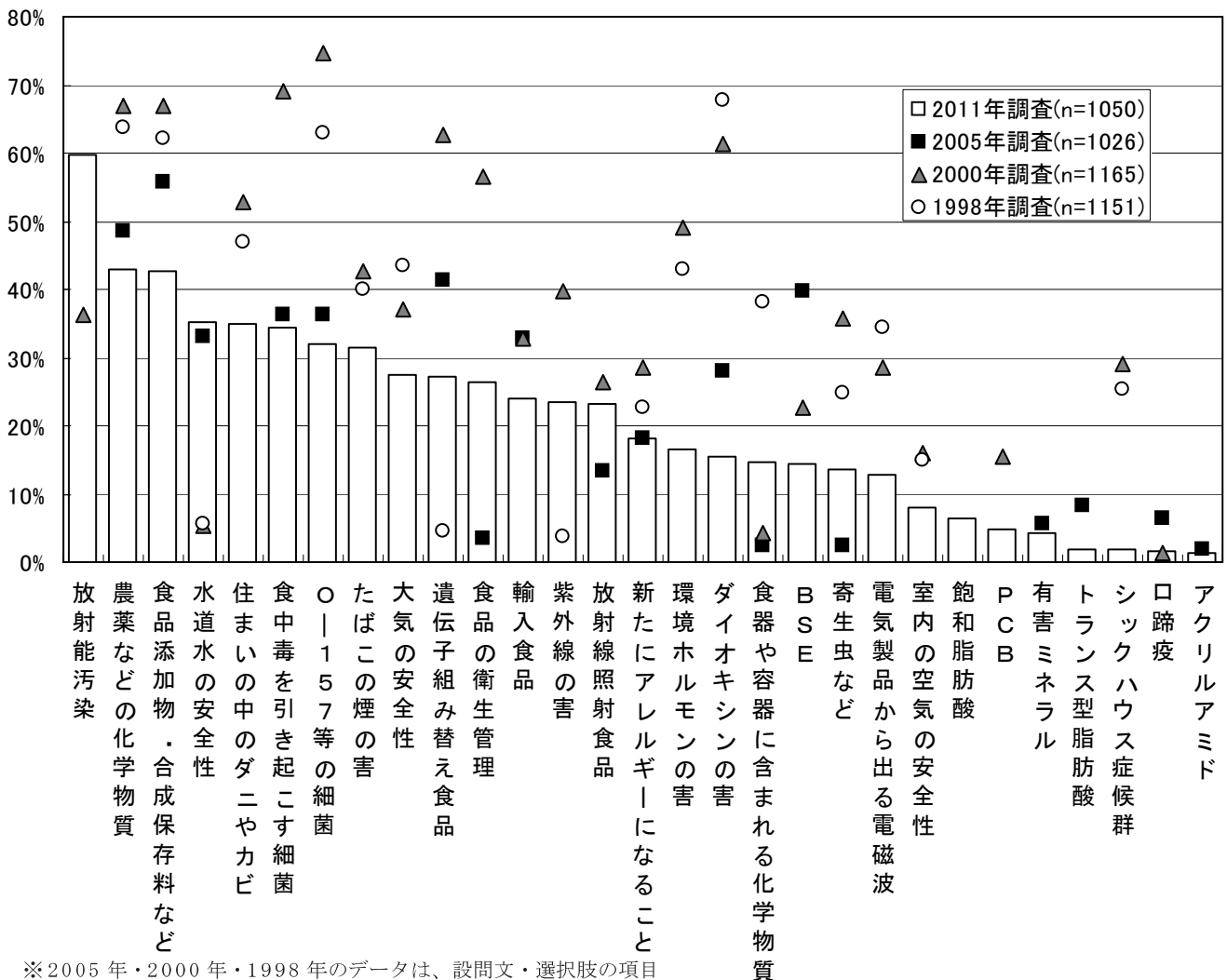
◆ 6 割の人が『放射能汚染』に不安、 いまや昔の『農薬』『食品添加物』『O-157』…

食品・環境に関する項目を挙げ、心配していることを聞きました。図表5は、2011年の棒グラフに、過去2005年・2000年・1998年と似た聞き方をした項目をプロットしたものです。

1位の『放射能汚染』は60%の人が心配しており、特に女性30代では68%と、各年代中最も多い年代でした。また、1999年の東海村の臨界事故後に行った2000年の調査と比較して25ポイント多く、今回の原発事故の衝撃の高さを伺えます。

以下は、『農薬などの化学物質』『食品添加物・合成保存料など』が4割台、『水道水の安全性』『住まいの中のダニやカビ』『食中毒を引き起こす細菌』『O-157等の細菌』『たばこの煙の害』が3割台で続きます。これらのほとんどの項目は10年以上前から不安に思われていたことで、2000年・1998年当時と比べると20ポイント・30ポイントと減少幅の大きいものも多く、現在の関心は高いとは言えません。これらの食品・環境に関する安全性への意識は、今年原発事故後の『放射能汚染』に取って代わったといえるのでしょうか。

図表5 食品・環境に関する心配 (MA)



※2005年・2000年・1998年のデータは、設問文・選択肢の項目数や表現が異なります。

「健康ニーズ調査2011」は、一般男女の健康に対するニーズを明らかにするため、首都圏在住の15～69歳の男女個人を対象に、下記項目について調査しました。

- ①健康に関する意識全般
- ②健康情報と気になる健康用語
- ③気になる症状
- ④健康に関する行動
- ⑤食生活に関する行動
- ⑥食の安全について
- ⑦栄養素・健康食品素材の認知・摂取意向

本調査は、健康マーケティングのための基礎データです。今回はその中から、「健康への気づかい」「女性の健康に関する意識」「健康のため食生活で実行していること」「健康のために食べている食品」「食品・環境に関する心配」に焦点をあて、結果の速報を報告しております。

(<http://www.jmar.biz/hot/hotanq42.html>)

【調査購入のご案内】

本調査は、弊社自主企画による調査に複数企業にご参加いただく方式で実施し、以下のアウトプット一式を提供いたします。

- ・購入費用：定価420,000円(税込441,000円) / M D Bメンバー価格380,000円(税込399,000円)
- ・調査のアウトプット
 - (1) 調査報告書：A4判・81ページ・2011年11月発行
 - (2) 集計結果表：A4判・863ページ・2011年10月発行
 - (3) 集計データ (CD-ROM)：クロス集計、ローデータ、他

※本調査の成果物の著作権は(株)日本能率協会総合研究所が保有します。

※弊社は、本調査にご参加・購入いただいた企業(法人・個人)以外には、成果物を提供いたしません。ただし、本調査を告知するための限定的な利用、及び発刊から一定期間経過後はこの限りではありません。

※本調査の成果物のご利用はご参加・購入いただいた企業(法人・個人)の内部でのご利用のみに限らせていただきます。

《本件についてのお問い合わせ先》

株式会社日本能率協会総合研究所 生活者HOTアンケート事務局 担当：土井
〒100-0004 東京都千代田区大手町2-2-1 新大手町ビル2階
TEL:03-6202-1287 FAX:03-6202-1294 E-mail:info_mlmc@jmar.co.jp

本件引用の際は、お手数ですが、上記あて掲載紙をご送付ください。